

市長の地域懇談会(三箇地区)会議録 <抄>

- 1 日 時 平成24年11月21日(水)午後1時30分
- 2 場 所 三箇自治会館
- 3 出席者 (自治会)三ツ川勇区長 他15名
(大東市)東坂浩一市長、野田政策推進部長、田中学校教育部長、齋藤指導監
(戦略室)品川課長、清水上席主査、西川主査
(事務局)木村政策管理課長、藤田課長代理

[開会] 午後1時30分

[木村吉男政策管理課長挨拶](0:15~)

皆さま、今日は。本日は、お昼の非常にお忙しい時間帯にもかかわらず、こんなに沢山の方々にお集まりいただきまして、本当に有り難うございます。ただ今から、市長と三箇地域の懇談会を始めさせていただきます。

この懇談会は、日頃、地域自治活動を推進され、ご尽力をいただいております区長様を中心と致します地域自治会の役員様達と、施政方針に基づく市長の新施策、公約の推進等につきまして、ご説明をさせていただきますと同時に、新市長との懇親を図る機会をもつていただければ幸いと考えております。

現在、大東市では、来年度に向けまして新設を推進しております全世代地域市民会議、これの趣旨や目的等につきまして、本日は、主にご説明をさせていただきたいと思っております。皆さまのご意見とご理解を賜ると同時に、忌憚のない想いを教えていただければ嬉しいと思っておりますので、宜しくお願いを致します。

申し遅れましたけども、私は、本日の懇談会の進行を担当させていただきます政策管理課で課長を拝命しております木村と申します。最後まで、宜しくお願い致しますと存じます。

それでは、最初になりますけども、東坂市長の方から、ご挨拶を申し上げますので、宜しくお願いします。

[東坂浩一市長挨拶](1:50~)

三箇の皆さま、今日は。大変出にくい時間帯に本当にご無理を申し上げましたにもかかわらず、このような多くの皆様方にお運びをいただきました。まずもってお礼申し上げます。本当に有り難うございます。

私、この4月の15日の市長選挙で初当選を致しまして、5月の7日より市長職に就いております東坂でございます。

三箇の皆さんには、一部、谷川中学校区ということもございまして、中学校のPTAの時代に色々とお世話になりましたり、また、私は、下野の生まれ育ちでございます。お祭りの関係、また、地域の関係で色々和三箇の皆さんとは、幼い頃より交流、また、お世話になっているところでございます。幼い頃の子ども会のソフトボールや様々なことが過ぎる中で、大東市全域を担うこととなりました身でございます。

一箇所一箇所、廻らしていただきながら、私の想いを各地域でご尽力いただいております皆さんにお伝えして廻っております。これが懇談会の目的でございます。半年の期間の間に、プロ野球のペナントレースに例えまして、所謂、キャンプ、この時期を半年過ごして参りました。

私の想い、市政の方向、そうしたものを職員のもう一度、再確認、再認識というところで、想いを一つにしまして、そして、いよいよ、皆さんとともに新しい大東市の未来を明るく構築していくための第一歩を目指そうとさせていただきます。

そこで、皆様方とこうした交流をもちながら、皆さんのご意見をしっかりと拝聴して、来年の4月に、あらゆることを具体的に進めていくべく、しっかりと皆さんのご意見をお聴きしていくために、できるだけ短期間に多くの皆さんのご意向を拝聴しようということでございましたので、この時間帯やこの人数でお願いした趣旨を是非ご理解いただきたいと思っております。

また、本日、皆さまから拝聴致しますご意見につきましては、この庁内の組織をフル稼働しまして、しっかりと具体的に詰めて参ります。それについては、改めて、また、皆さまにお伝えする機会があるかと思っておりますけれども、本日の趣旨をご理解賜りまして、皆さんのご意見、宜しくお伝えしたいと思っております。では、宜しくお伝え致します。(4:42)

全世代地域市民会議の目的について

〔東坂浩一市長〕(15:30～)

本日の目的は、何も市民会議のお話だけではないんですけれども、特に、この市民会議について、各自治会の皆様方にお伝えをすることを、まず、させていただきたい。何を伝えると言いますと、こういう想いで、こういう目的で、こういう大東市を創りたいと。であるからこそ、こういう市民会議を進めていく、そういう積もりをもって動いてるんだけど、この今、具体的な詳細について、先ほどの説明ありました戦略室という部局が中心となって、各課の意見を集約して、より良いものを構築していくその土壌でありますけれども、詳細を詰めていくに当たっては、皆様のご意向をしっかりと拝聴したい。しかし、その根底に流れる想い、これを是非ご理解いただきたいということで、できるだけ短期間に地域を全部廻らしていただきたいなと思っております。

最初の地域と最後の地域が、半年も経ってしまいますと、ニアンスやまた温度もまた記憶が薄れるということもあろうかと思っておりますので、できましたら、2か月ぐらいの間に、全ての区を廻らしていただきたいなと、こんなようなことを議会も挟みながらお願いを申し上げましたところ、どうしても、この日程的に、この昼間のこんな出にくいお時間になったり、また、少数の皆さんに限定してお願いするという無理なお願いをしたり、また、ここから、この時間帯で作ってくださいよというような手前勝手に聞こえるようなことをお願いしたりして参りました。その意味は、そういうことでございますので、是非、ご容赦をまずもっていただきたいなというところでございます。

また、今日は、何も市民会議のことだけじゃありません。それ以外についても、いろんなご

要望やご意見がありましたら、是非、拝聴したいと思っております。加えて、区長さん、おっしゃいました。これまでの地域訪問に様々な手かせ、足かせがあったというようなこともね、私は、その当時はお聴きする側だったものですから、私もそういうことであれば、せっかく地域にお邪魔しているのに、本当の意味での交流や意見の遣り取りも出来ないなと思ひまして、一切、台本はございません。

今回の懇談会は、ほとんど私が喋っております。部長クラスが何時も横に座ってくれているんですけども、ほとんど私が喋っているに終始しております。ですから、此奴、何を考えとんねんとか、なるほど此奴の場合は、こういうこととか、そういうのもできるだけお伝えできるように形になっているのかなというふうに思っておりますが。とは言え、三ツ川区長の息子さんの卓生さんより、まだ若い東坂でございますので、全然、行き届かんところも多ございます。

しかし、その分、非常にやる気とエネルギーをもって取り組んでおりますので、皆さんのご意見をしっかりエネルギーに代えて、きっと前進するエネルギーにできるのかなと思っております。厳しいご意見ほど有り難くエネルギーに代えさせていただきますので、ご遠慮なく色々のご意向をいただきたいと思ひます。そして、その前に、まず市民会議についてお話をさせていただきます。大体、各地域で20分ぐらい時間をいただいております。宜しく願ひします。

市民会議、これ大相な名前、全世代地域市民会議と、こういうネーミングになっておりますが、これは、要は、みんなでいろんな意見が交わされる、そんな土俵づくりをしたいね、ということで、全世代、若いも若きも、それから地域、その地域の人みんなで、その意見を吸収したいなと、こういうものをイメージしております。

その目的について、趣旨については、大きく3つございます。3つお話をさせていただきますので、是非、ご理解をいただければなというふうに思ひます。

1つ目でございます。大東市は、言うまでもなく51人の区長さんがいらっしやいまして、それぞれの区長さんが地域に奔走していただきながらですね、地域の事情を常に最新を集約していただきながら、役所へと様々な要望を伝えて来ていただいております。

特に、今年、8月のお盆に大変な集中豪雨がございました。短期にあれだけの雨が降る、当初は、ちょっとした計測のミスで、1時間に135mmの雨が降ったとされておりますけども、数値は、修正されました。約85mm弱であったということでございますが、それにしましても、未曾有の集中豪雨でございまして、各地に様々な被害が出る。また、いろんな情報の錯綜があったり、ある意味パニックが起こったりしてございましたけれども、各地域におきましては、それぞれ区長さんを中心に、自治会の役員の皆さんが奔放いただきましたので、短時間の中で地域の収拾に本当にご苦心ご苦労をいただいております。

区長さんの中には、胸まで水に浸かって奔放、奔走いただいた方もいらっしやる中、そのご尽力のお陰で、寝屋川や門真、枚方など、近隣の同じ下水道流域の各市に比べまして被害が少なく済みまして、混乱も本当に最小限で済んだ。こういったことは、平素よりの自治会活動の賜だということで感謝を申し上げる、これ以外は無いわけでございますけれども、そういう意味では、既に、大東市には、51の市民会議が現存しており、しっかり機能していると、このように考えております。

その中でですね、自治会を上手く機能していただくために、多くの自治会を代表するご意見

は、要望書という形でまとめていただきまして、市の方に提出を賜っております。そして、ただただご要望を一つひとつ対応課、部の方で回答書としてご回答申し上げる。そういう遣り取りを年に一度、二度とさせていただきながら、地域を少しでも皆さんの思うように改善していく、こんな形の方向性と、もう一つは、大東市側の意向、想いを地域の皆様にお伝えいただき、そのパイプ役、中継役として本当にご苦勞をいただきまして、20数年に亘る、特に三ツ川区長のようなベテランの区長さんには、本当に大東市は、誤解せずには申し上げますと、大変便利な機能であり、便利な仕組みであるというふうに運用されてきたのではないかなというふうに思っているんですね。

その中で、色々とお話を拝聴しますと、新たにマンションが建ったよと、また、12軒の開発があって、建売が並んだよと、そういったことがございますと、なかなか新たに入ってこられた皆様が自治会にしっかりと浸透してくるという頻度が年を追うごとに下がってきている、減ってきている、こういう現状があるようでございます。マンションの中の掃除はするけれど、何で外の掃除せなあかんねんとかですね。家の子どもは、家の子や、放つといてくれとかですね。平気でそういう暴言を吐く親が普通に出てくる現状の中で、その人達を收拾、集約していくご苦勞を区長さんをはじめ、役員の皆様方をお願いし続けておるわけですがけれども、そういう方々の比率がどんどん増えてきている、そういう現状がございます。

その皆様のご尽力がですね、もっとしっかりと花咲き、実を結ぶような形で、何とか新しい機能を付加できないものかなと、このように考えている次第なんですね。そこでですね、私も、このように毎日参りまして、これまでの形と違って、皆様からそのとき思いついたことでも構いませんし、どんどんと意見を拝聴したいなというふうに申し上げたのはですね、やはり、これまでよりもしっかりと市民の皆様と市役所との距離を縮めていきたいなと、近づけていきたいなと、もっと身近に考えていきたいなと、もう一步申しますと、皆様と一緒に考えていきたい、市民の皆様の中に入って一緒に考えていきたいなと、このように思っています。

そういう意味におきましてはですね、自治会の皆様方に加えて自治会以外の皆様方、入ってこられない皆様方や、また、自治会には関係ないというような顔をした企業、法人の皆さんや、あるいは若年ですね、若い子、学生さんがワンルームマンションに住まわれたりすると、なかなか自治会とは縁のない生活を送られております。表札すら挙げていない子が沢山いらっしゃるわけで、そういった人達もやはり、地域の安全や子ども達の通学路の危険性を考えたときには、その人達の存在もやはり無視するわけにはいかない。地域に安全と安心をもたらすためには、地域にどのような方がお住まいで、どのようなことを考えておられて、どのように纏まっていくか。地域の防災訓練一つとりまして、隣のマンション1棟だれも出てこないようでは、防災にも何にも、なかなかならないわけでございまして、そういう地域でしっかりとした自主防災も含めてですがけれども、自主、自治ということをしていくためにも、職員も一緒になって何かお手伝いができないかなと、こういう想いでございます。

ですから、市民会議というてますけれども、今のイメージは、大体、大東市を8つぐらいに分けて、その自治会を優先しながら区割りをさせていただく中に、その8つのそれぞれの地域に2人から3人の職員を派遣したいなと思っております。この派遣された職員が皆様と一緒に地域の問題を悩み、苦しみ、そして喜び、笑い、こういった大体2年ぐらいを考えていますけれども、2年間を過ごさせていただければなと思っているわけなんですね。

そういうことで、その職員は、今までの役員さんが廻れなかった例えば、ワンルームにお住まいの学生さんの意見を聴きに廻ったり、あるいは、なかなか家から出ることの出来ない障害をもった方、ご高齢の方、あるいは疎遠になっている方、その方にあししげく訪問しながら、出てきてもらうことが駄目でも、内容について聴き取りに廻ったり、こういった、きめ細やかに地域をしっかりと集約するお手伝いをしたい。その中で、地域それぞれが今まで以上にしっかりと纏まった自治という形ですね、進めていけたらなというふうに考えております。この思いが1つ目の思いであります。

2つ目なんですけども、今、私も半年やっとなんて経ったばかりですが、区長の皆様にも少しずつ顔を覚えていただいております。そうしますと、こんなことをお聴きします。「この間、(市役所へ)電話してんけど、俺の言うてること、電話に出よつたやつ、さっぱり解りよれへん！ 今の職員、大東に住んでるやつ何割おんねん！ 大東のことを全然知らんやつに任しといていいんか！」

そういった疑問ともお叱りとも・・・そういうお言葉を拝聴することが何度もございます。先だつては同じ懇談会の中で、区長さんに、「この間、木がひっくり返っているから危ないぞ、と役所に電話したら、それ何処ですかと言うから、どここの前やと言うたら、どここの前、解りません。地図を持って来るから待ってください。すみません、そこの住所、正確に教えてもらえますか(と言うから)、私も車で通つて、ここの住所解るかいなと言うた。」と言つたはりました。普通は、阪奈の酒屋の上りの前と言うたら解るのが職員とちゃうんかと！ こういったご指摘もいただきましたけれども、なるほど、そのとおりのやなと思います。

そこでですね、職員をですね、各地域に担当として派遣するという事は、その職員の中でも、例えば、三箇地域に派遣された職員は、三箇のことを誰よりも知っている職員に育っていく、こういう要素を希望、期待しております。

私は、ご承知の方もいらっしゃると思いますが、半年前までは行政には無縁の民間の男でございまして、商売をしておりました。営業マンとして、お客さん担当とか、例えば、奈良県の担当とか、担当者を決めて、それぞれのお客さんのご事情に、いい意味でのご用聞きにも廻らしていただいております。何か不都合はございませんか。(納品が)終わってから3年経ちますけれども何か調子悪いところはありますか。また、お子さん、大きくなってこられて、部屋狭なっていないですか。そういったことをお伺いしながら、「実は家の子ね、中学校、私学に通つたんやわ、通学がちょっと遠いから、朝、早なつてんけど」、とかいうご事情を色々お聴きしながら、生活の変化に伴つて、いろんなきめ細やかにサービス、こういったことは、民間の中では普通のことではあるんですけども、役所にもそういう発想が要るんじゃないかなと、地域の皆様にご事情を申し入れられるもなくですね、職員が地域のことをよく察知、感知できるように、何時でも皆さんとともにおりましてですね、地域と一緒に、地域の事情を理解していきながら、地域のスペシャリスト、地域のプロを養成していくと、こんなふうに考えております。

今のイメージですと、各会議体ごとに、2名から3名を派遣しようと思つておりまして、2年間で、1人ずつ交代していくようなことを考えておりますので、毎年毎年、8地域ありましたら、8人ずつね、地域で教えてもらった職員が市役所へ帰つてくることになります。1年で8人、2年で16人、3年で24人、5年も経てば40人の地域で育てていただいた職員が庁舎内を満たしていくことになります。

それはですね、私の近い将来の中では、この経験をもって初めて、管理職になれるんだよ、というようなところまで繋げていきたいなと思っておりまして、それが実現すれば、庁内の管理職は、すべからく地域の事情に、2年～3年一緒に笑い、苦しみ、悩んだ人間ばかりになると、そういった庁内職員の運営する市役所事情はですね、おそらく、他市に先駆けて、地域に根ざした行政ができるんじゃないかなと、このように考えております。

そういう意味では、行政職員の教育という意味と、それから、身近に皆さんとともにという意味を持ちまして、2つ目の目標とさせていただきたいと思っておりますし、また、今日ですね、大変きれいにおしつらえいただきまして、私、こうして座って偉そうにもの申しておりますけれども、職員は、こちらにおりますよね、こちらにおります。

しかし、私のイメージはですね、できましたら、その間、皆さんの間に1人ずつ入らしていただきたいんです。皆さんの中に1人ずつ入らしていただいて、一つの輪にして、こっちが行政員、こっちが市民の皆さんではなくですね、一緒にね、市民の皆さんと一緒に行政職員が地域のことをしっかりと議論していく、そういう考え方の舵を切り替えていきたいなというのが2つ目の考えでございます。

3つ目でございます。これは少し視点が変わります。三箇の地域の皆様方には、ちょうど真ん中にね、中学校区が分かれておりますけれども、深野中学校区と谷川中学校区ということになるわけでございます。この中学校の現状をよく見ていきたいんです。地域の小学校や中学校は、地域の方が通います。当たり前ですよ、四條畷や交野や東大阪の子どもさんが地域の公立小学校、中学校に通えません。それは、私立と全く違うところでございますけれども、それは、逆に言いますと、卒業すると地域に帰っていく人材を育てているということになります。

街づくりは、人づくりと思っております。人づくりの根幹は、教育であるというふうに思っております。小学校、中学校の教育は、しっかりとすることによって、その町を創っていく人材を育てるんだと、こういう想いに立ち返りたいと、このように思っております。

その中でですね、今、小学校、中学校は、どんな傾向にあるのかと、ちょっと、そこのお話をさせてもらいたいですけれども。10年ほど前の事件です。皆さんの記憶に新しいと思っておりますが、大阪教育大学附属池田小学校という学校がございます。こちらの白昼にですね、宅間という男が突如乱入を致しまして、多くの児童と先生を殺傷するという痛ましい事件が起きました。僅か10年ほど前の話ですが、これ皆さんも記憶にも新しいと思っております。

それまではですね、実は、大東市も含めて、ほとんどの公立の小学校、中学校は、教育を地域の皆さんにもっと公開していこうと、オープンにしていこうという流れでした。校庭の開放もありましたし、学校開放もどんどん進めようという方向にあったんですね。地域の皆さんに守っていただく、地域とともに学校を運営していこう、発展させていこうと、しかし、あの事件があって以降、皆さんご存じやと思っておりますが、学校の前を通りますと、門はピシャ！と閉まっています。

事件の発覚後は、大阪府の補助金が出たこともありまして、門の前に警備員が常駐するという状況が続きました。今は、その補助金もなくなりまして、警備員こそおりませんけれども、何が代わりにいるかと言いますと、インタホンですね。学校に入ろうと思いますと、皆さんでもそうです、三箇小学校や深野中学校や谷川中学校へ行こうとするとですね、あの電氣的な機械にボタンを押して、「どちら様ですか。」という対応に対して、「地域の者です。」と申し上げ

ますと、中から教頭先生が飛んできてですね、「どちら様ですか。どういったご用件でしょうか。」というようなことになります。で、ようよう扉を開けていただいて中へ入れるというような状況ですね。

そんな状況で、学校が非常にクローズになりました。そこで、何が起こったかということなんですが、学校の中のことを知っている大人は、先生に限られるような状況になってきました。学校の中で行われている、あるいは起こっている出来事を現実しっかり見ているのは先生だけ、授業を見ている大人は先生だけ、学校の中の行事を見ているのは先生だけ、このことは、先生不信でも何でもありませんけれども、生徒と先生間の関係も少し歪にしまして、つまり、先生は今、授業を受けずに校内をうろうろ歩き回ってですね、先生方は、一所懸命その子どもらを追いかけ回しています。

「教室へ入らんか！、授業受ける！」、しかし、今の子ども達はね、先生が生徒に指1本触れられないことをよく知っています。なんぼ怒鳴ろうが、叫ぼうが、生徒は相手にしない。そういう生徒が沢山いるんですね、それは、学校によって、また、年齢によって程度の差こそあれ、先生方は、夜8時、9時まで、職員室でいろんな電話対応や対応に追われています。「何してまんねん！」コンビニから電話がかかってきました。「お前とこの生徒が前でウロウロしてんねん。何とかせえ！」。スーパーから電話がかかってきます。「中でウジョウジョ、果物取っては放り投げ取る、何とかせえ！」。「自転車2人乗りして走り回るとる、何とかせえ！」

そういった生活指導や生徒指導に追われて、本来すべき授業に対する様々な教材の研究や授業の改善についての、そういった本来すべき仕事の手をかなり取られている要素があります。それについて保護者の皆さんも何かあったときの報告を聴き、対応をし、先生に対して「何してまんねん、しっかりしなはれな！」と、そんな悪循環が続いてきたわけですがけれども、やはり、そこに、地域の皆さんの目が届きですね、地域の皆さんとともに、学校をよく見ることによって学校をしっかりと変えられると思います。

一例を申し上げますと、運動会です。大東市の中に8つの運動会が、8様に、8校それぞれの伝統、文化をもって行われています。

ある中学校では、大会のプログラムを見ますと、100m走、800m走というプログラムの横に、何々中学校記録、何年の誰々と書いてある。1分15秒とかね、書いてあります。それをまた記録として、今年破られた場合には、大きく放送があって、「何々中学校の記録が、今破られました。」みんなで、ワ〜と、拍手して、ある意味、その体育大会、スポーツ競技として、しっかりと運営されている学校が片やあります。

もう片や、ほとんどの子どもは、ゴールのテープを切るまで全力疾走することはありません。組体操の中でも、やはり、生徒の指導を行っている先生方にもピアスをしたままされておったり、ポーチを肩から掛けたままで指導しておったり、また、放送席の指導の先生は、足を組んで半身になって生徒に教えているようなこともあります。そして、その体育大会、運動会そのものはですね、非常に和気藹々とされているんですよ。何もその暴れ回ったり、校外へ出て行くような生徒がいると、そういうわけではないんですけれども、その学校は、それがその学校の風土なんですね。どちらの体育大会が良いのでしょうか、こういうことを問うてるのではないんです。その学校は、その学校なりの風土として、実は、保護者の皆さんや地域の皆さんがあまり出入りしなくなったためにですね、学校独自の風土が生まれつつある非常に危険な状態

なんです。

これは、もし皆さん方がその中学校に出入りされて、同じ体育大会をご覧になったときに、どちらに好感をもたれて、どちらにするべきかということは、自ずと決まってくると思うんですよ。先生方もその学校の風土をそのまま伸ばすことでなく、地域の皆さんとともに、本来あるべく健全な学校運営をすることによって、授業にも規律が生まれるでしょうし、生徒指導にも規律が生まれてくると思います。

そういう意味で、この市民会議については、職員をですね、将来は、近い将来的には、中学校の余裕教室に事務局を作り、そこに職員を常駐させたいなと思っています。地域のことを話し合うのに市役所へ来てもらうのも結構ですが、その事務局へ来ていただいて、地域の資料やとか、この間のあそこの部会、どんな話やったんやとか、「今度、何時何時、集まりたいから案内出してな！」とかいう地域の皆さん方の交流が生まれれば、そこで学校に対する地域からの目も入りますし、想いや愛情も向かうかなと、このように思う次第なんですね。

そして、この自治会単位の皆さん方は、公民館でお話をするともあると思いますが、余裕教室を使っても結構やと思います。自治会が2つ、3つに分かれるような会議のときは、学校の図書室やとか音楽室を使ってもらったらよろしいかと思います。地域全体の、校区全体の話を経済的に決めなあかんようなところがありましたら、そこは体育館を使っていたらよろしいかなというふうに思います。

そして、学校のある様々な機能を使いながら学校の教育と皆さん方の距離を縮めて、しっかりと人づくりを街づくりに続けていく、こういう学校教育の改革、改善にも、この市民会議が機能すればなというふうに考えております。

細かいお話、説明は、まだまだ今のお話では不足なんですけれども、私が思いますところの市民会議の実践で、地域、街を創って、花を咲かせ、実を結ばせるという想いの3つの柱は、今のところがございます。その柱をしっかりと、しっかりと根付かせて、背骨として確立させて、肉付けをしながら、よりよい街づくりが8つ、8様にそれぞれの個性にしっかりと花を咲かせていけば、『こんな素敵ない街づくりがありませんよ！』と、他市に誇れるような、そんな街づくりの第1歩を歩めるんじゃないかなという想いでございまして、その想いをまずお伝えし、それに対してのご意見を皆様方からお聴きし、来年の4月に、ある意味、一斉にスタートしていくこの市民会議の中でしっかりと取り組んでいくその材料を頂戴したいなということでございます。

ですから、申し上げましたところは、あくまで柱というか、ベースというか、背骨でございますから、あと肉がどう付くねんということについては、ご質問をいただくというよりは、むしろ、ご意見を頂戴し、それを参考にして具体的なものを創っていきたくと思っていますし、ハナから「そんなもん悪か！」というご意見があったら、それはそれとして、しっかりと拝聴せなあかんと思いますけれども、それを如何に良いものにしていくかということについて、皆さんと一緒に話し合いができれば、非常に幸せなことだなというふうに思っております。

こんな形で一方的にお話をさせていただきましたが、ここからは皆さんと一緒にご意見を拝聴しながら、この流れを更に良いものになりたいと思いますので、どうか宜しくお願い致します。

(42:20)

全世代地域市民会議の設置区域割について

〔東坂浩一市長〕（52:00～）

中学校の8つの校舎を活かしていきたいんですね。中学校の8つの校舎を活かしていくために、中学校の教育改善に繋がるような地域割というか、地域の分担を考えたいと思っております、それがややもするとですね、「校区に杓子定規にきちっと割り振りがあるんや！」というふうに伝わっているところがあるようです。

この8つの中学校を使って、地域のことについて、市役所と一緒に取り組んでいこうと申し上げていることに何の違いもないんですが、それは、学校区をそのまま当てはめるということでは決してありません。

この三箇地域以外にも、校区でいくと、自治会が真2つに分かれるところが他にも実は沢山ございます。そういったところは、自治会単位でしっかりと議論ができるように、話し合いができるように、この市民会議の割り振りは考えていきたいと思っておりますけれども、しかしですね、例えば、三箇の話でいきますと、三箇全体を1つの会議で話す中で、谷中独特の話が出てくることがあります。深中独自の問題が出てくることもあります。そのときは、その方々については、深中へ行っていただいて話をさせていただくことも、当然できるようにしないと、いけないと思っております。

ですから、自治会としてのお集まりについては、分断するものではありませんが、谷中部会とか深中部会とか、そういう問題によっては、部会を細かくセットしていくということもあると思います。それは、例えば、25歳以下の人の若者の意見交換会とか、福祉にかかわる人達の健康対策とか、その地域、地域によったご事情に即した、そういった部会の構築ということもあろうかと思っておりますし、それについても、職員がしっかりとサポートしながら、そういう方々が、そういう方々のそういう議論ができるように、会議を醸成していきたいなと思っております。

ですから、校区によってこの地域を真2つに割るということは決してありません。それについては、その方向で確定するに至るまでは、皆さんのご意見を最後まで拝聴しながら決めていきたいと思っております。

また、決まったからといって、それが未来まで続くわけがありませんので、そこのご理解も宜しくお願ひしたいと思ひます。

区長、すみません。そんな方向で考えておりますので宜しくお願ひします。

(54:30)